

# 平成27年産水稻の生育状況と今後の対策 (水稻生育診断技術確立調査-6号)

農林総合研究センター  
平成27年6月29日調査

## 気象経過

1. 6月第5半旬の平均気温は、金沢が平年より高く、輪島は平年並（金沢：+0.9℃、輪島：+0.3℃）となった。日照時間は、金沢、輪島ともに平年よりかなり多く（金沢：213%、輪島：201%）、降水量は金沢、輪島ともかなり少なくなった（金沢：11%、輪島：1%）。
2. 6月24日に新潟地方気象台から発表された、向こう3か月の予報では、この期間の降水量は、平年並または多い確率ともに40%と予想されている。
3. 6月25日に新潟地方気象台から発表された、向こう1か月の予報では、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。この期間の降水量は、平年並または多い確率ともに40%、日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%、気温は平年並の確率が40%と予想されている。

## 生育概況等

### 【生育状況】

1. 出穂期  
ゆめみづほの出穂期は近年より3～4日程度早く、加賀地域では7月14～19日頃、能登地域では7月19～23日頃と予想される。
2. 葉齢  
コシヒカリの葉齢は、10.7葉（平年10.5葉）となっており生育は2日程度早い。加賀地域の生育の早い圃場では幼穂が確認されている（幼穂長0.1～0.5mm）。
3. 草丈  
コシヒカリは平年比105%（加賀地域104%、能登地域106%）と平年並、ゆめみづほは近年比109%（加賀地域108%、能登地域112%）と近年に比べ加賀地域はやや長く、能登地域では長くなっている。
4. m<sup>2</sup>当たり茎数  
コシヒカリは、平年比95%（加賀地域95%、能登地域96%）と平年並、ゆめみづほは近年比97%（加賀地域98%、能登地域96%）と近年並となっている。  
県下の調査地点の内、コシヒカリの約7割、ゆめみづほはの約9割で最高分げつ期を経過している。
5. 葉色  
コシヒカリの葉色は4.2（葉色板値）と低下傾向にあり平年並となっている。

6月28日

### m<sup>2</sup>当たり茎数(平年、前年)及び株当たり茎数

コシヒカリ	県平均	509本	(平年比 95%)	前年比 101%)	27.7本/株
	加賀	512本	(平年比 95%)	前年比 105%)	27.8本/株
	能登	506本	(平年比 96%)	前年比 93%)	27.7本/株
ゆめみづほ	県平均	550本	(近年比 97%)	前年比 105%)	32.3本/株
	加賀	560本	(近年比 98%)	前年比 108%)	32.5本/株
	能登	523本	(近年比 96%)	前年比 98%)	31.8本/株

### 【病害虫の発生状況】

1. 紋枯病の初発が確認され（6月25日）、平年に比べ3日早い。
2. 現在までのところ本田におけるいもち病の発生は確認されていないが、6月第4半旬に入ってから、感染好適日の出現が多くなっている。
3. 雑草地における斑点米カメムシ類の発生は多く、特にカスミカメムシ類の発生が多い。

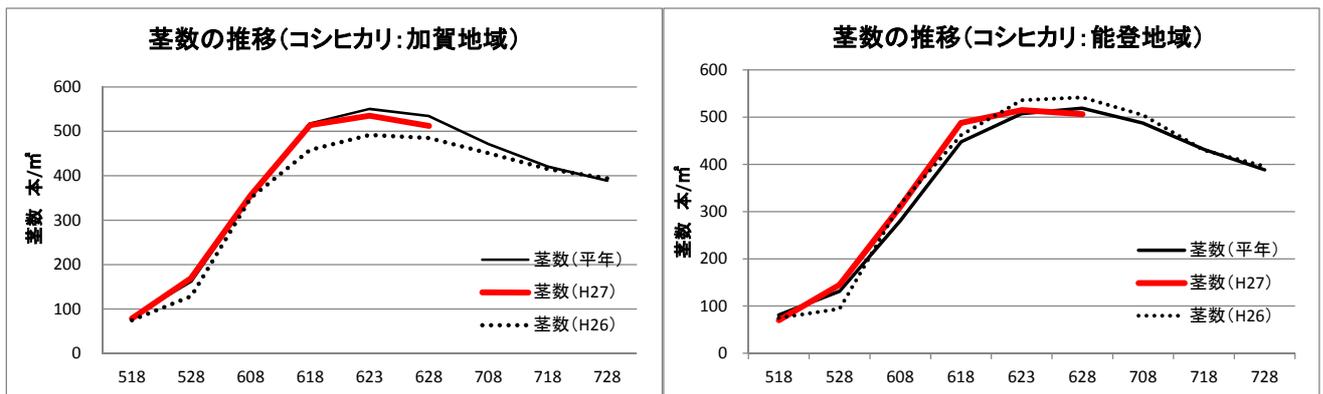
## 当面の対策

1. ゆめみづほの1回目の穂肥は、着粒数を確保するため、適期である幼穂長1～2mm（出穂23日前）を確認し、遅れずに施用する。葉色が濃いほ場（葉色板値4以上）や茎数が650本/m<sup>2</sup>を超えているほ場では時期は遅らせず施肥量を減らす。  
2回目の穂肥は、葉耳間長±0cm（出穂10日前）とし、遅くとも葉耳間長+2～3cm（出穂7日前）までに基準施肥量を施用する。

2. コシヒカリは、稲体の健全化、弱勢分げつの発生抑制と有効茎歩合の向上を図るため中干しを継続する。生育が早まっており幼穂形成期も早まると予想されるので、中干しは7月第1半旬までとする。但し、5月20日以降の移植ほ場においては、7月第2半旬まで中干しを継続する。
3. 減数分裂期（出穂前15～5日）に19℃以下の低温が予想される場合は、可能な限り深水管理とし、不稔籾の発生防止に努める。
4. コシヒカリの1回目の穂肥施用にあたっては、幼穂長15mm（出穂16～15日前）、葉色板値3.5を確認して行う。ただし、茎数が多く、葉色が濃い圃場では、施用時期を遅らせたり施肥量を減らす。
5. 穂肥施用後は根の機能を保持し、登熟を向上させるため、間断通水により土壌の飽水状態を保つ。
6. 紋枯病の初発が平年より早いため、常発地や前年発生ほ場、茎数の多いほ場では多発する可能性があるため防除を徹底する。粉剤での防除適期は、イネの出穂10～14日前である。
7. いもち病感染好適日の出現が多くなっていることから、常発地や葉色の濃いほ場を中心に巡回を行ない、葉いもちの早期発見に努め、発生を認めたら直ちに防除を行う。
8. 斑点米カメムシ類の発生が多くなっているため、生息密度を下げるため、引き続き7月上旬まで生息場所である畦畔や農道の除草を徹底する。除草は、集落など地域全体で一斉に実施すると効果が高い。なお、刈り払った雑草は用排水路に入らないように注意する。

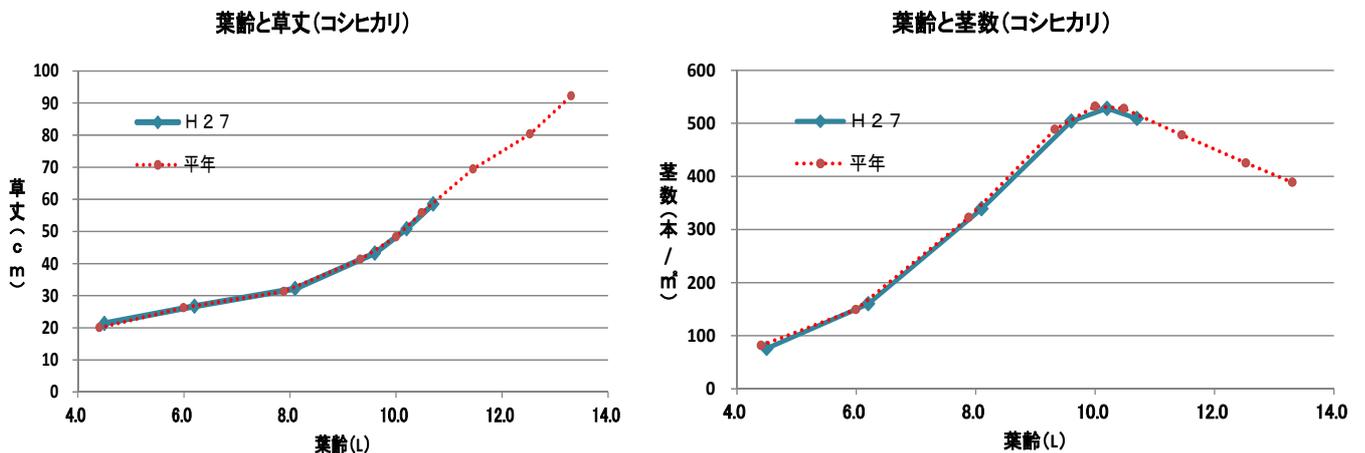
<参考：地域別茎数の推移>

コシヒカリは最高分げつ期を過ぎており、本年の㎡当たり茎数は平年及び前年並となっている。

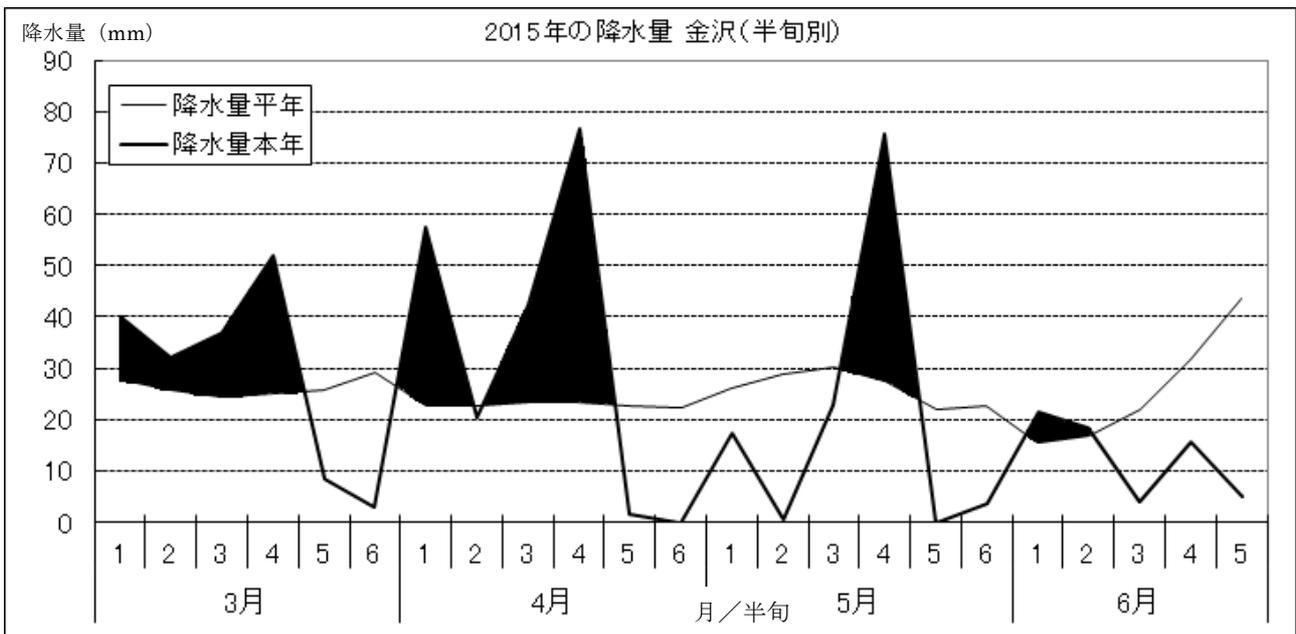
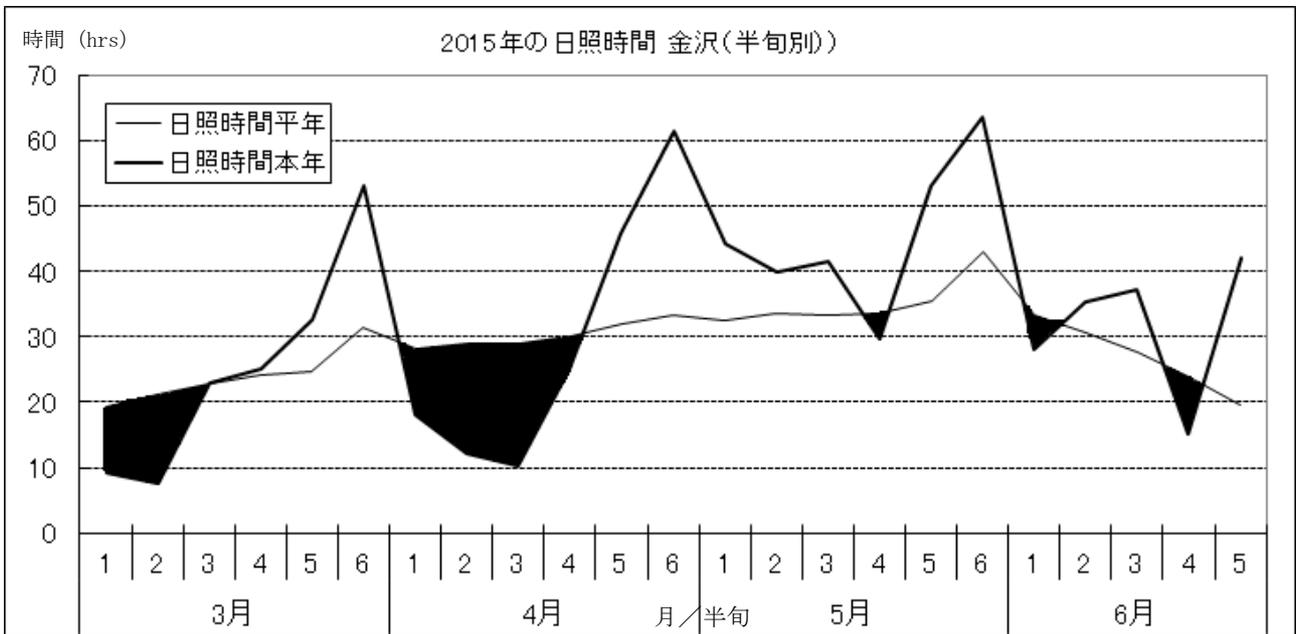
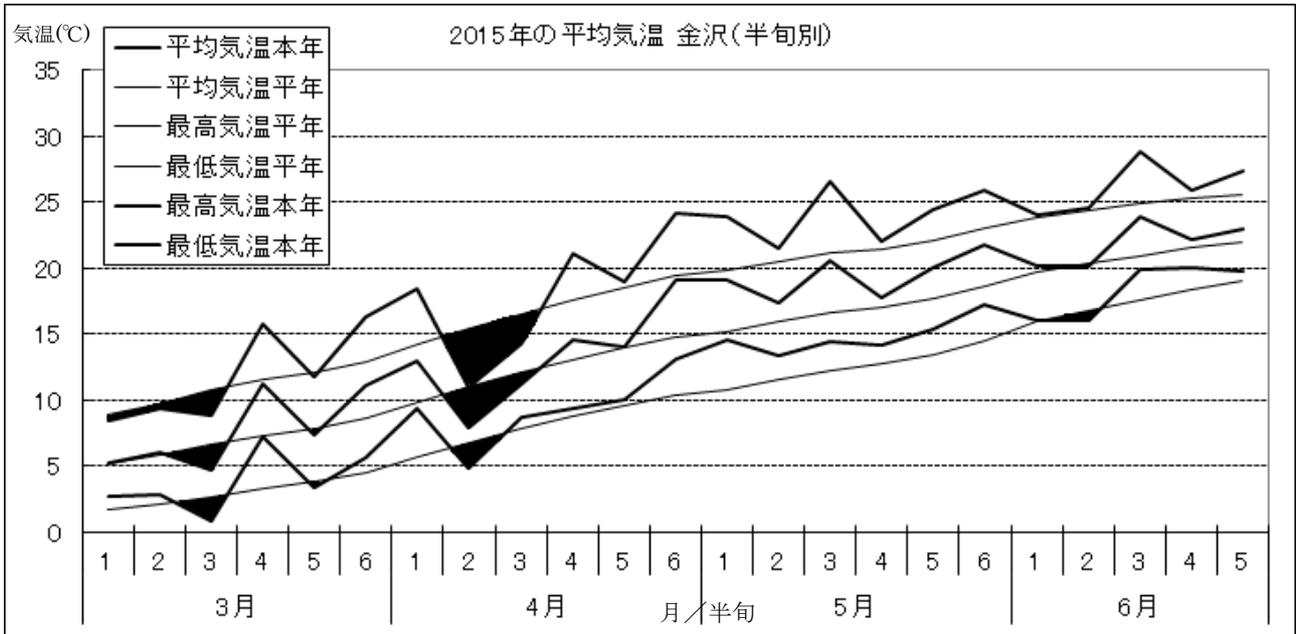


<参考：葉齢における茎数の増加・草丈の伸長>

コシヒカリの葉齢を基に草丈の伸長及び茎数の増加を平年と比較すると、草丈及び茎数の増加は概ね平年並となっている。

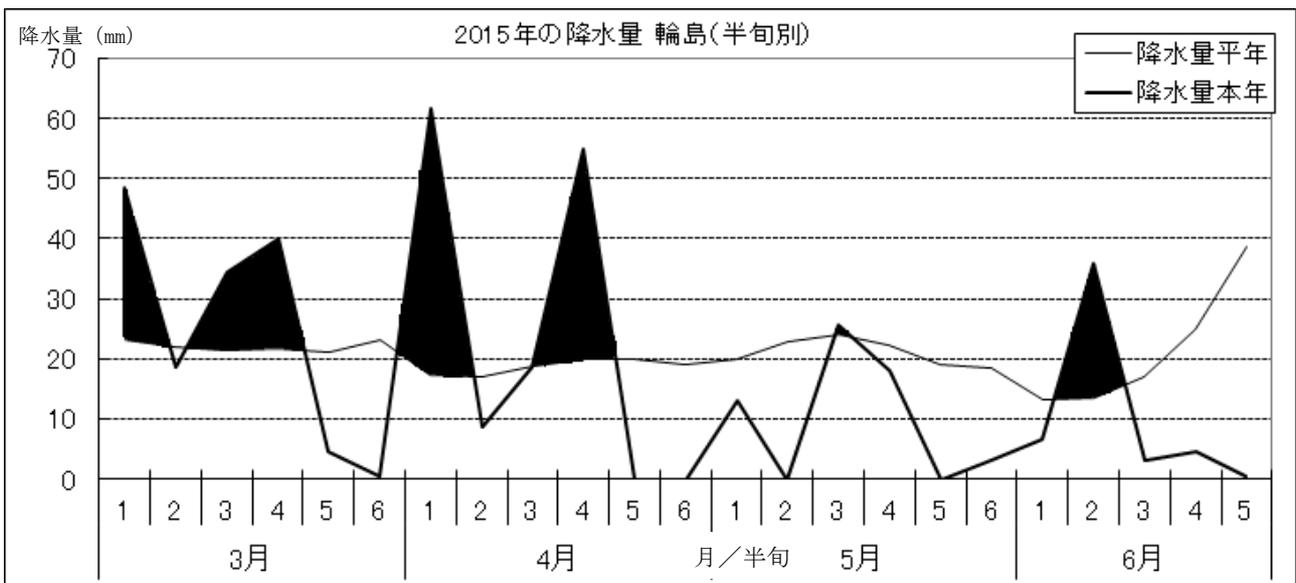
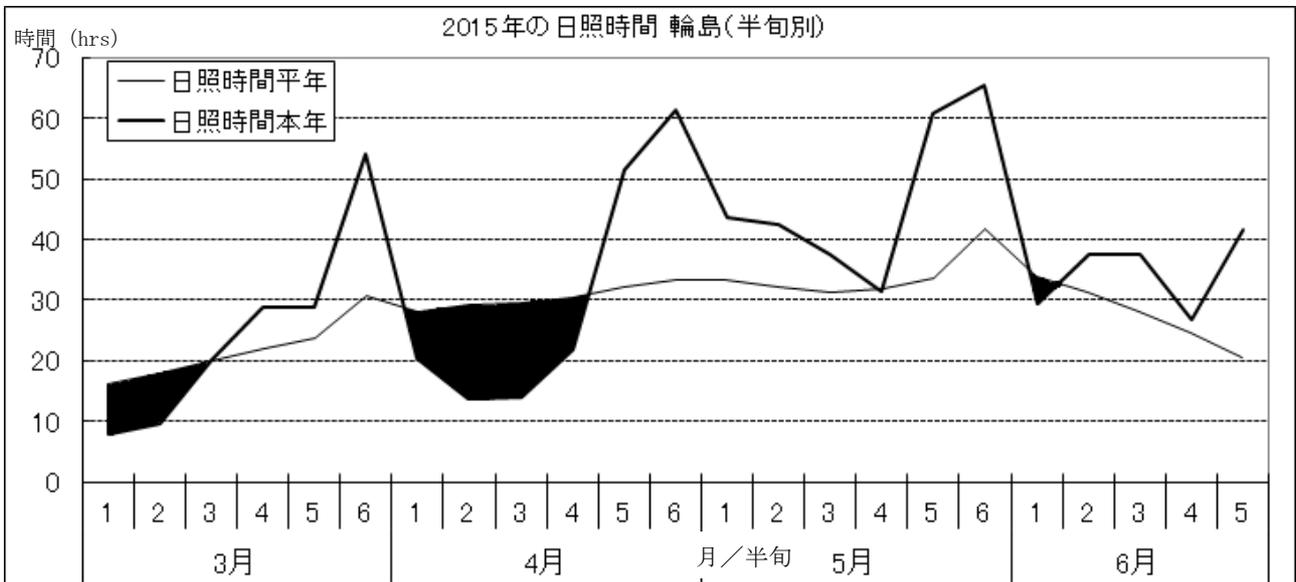
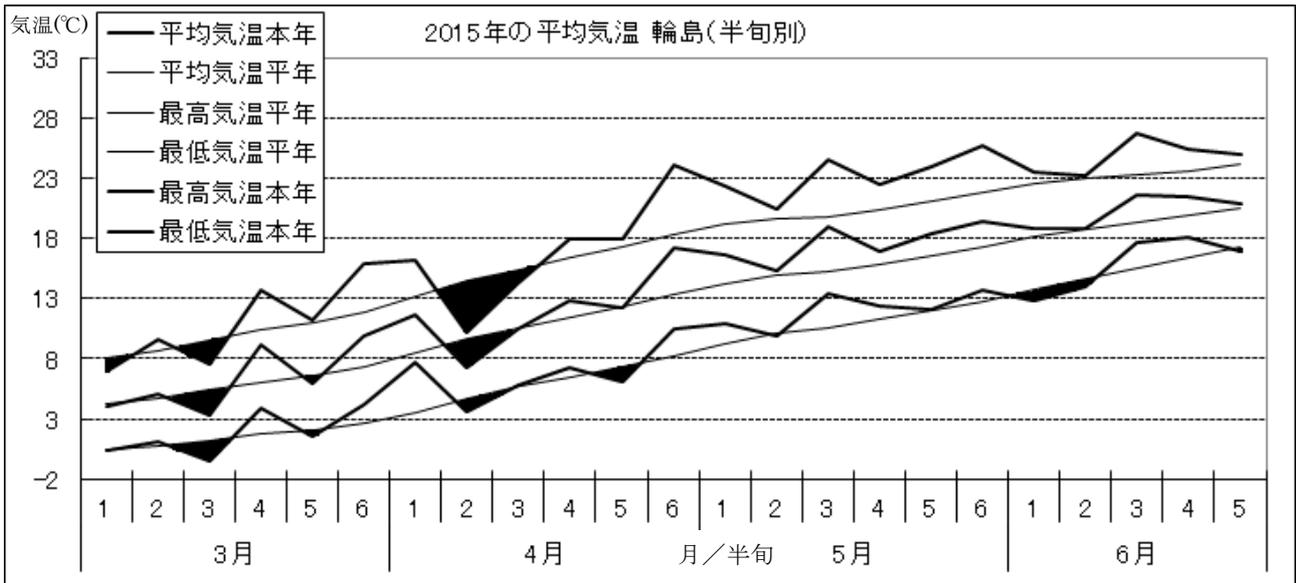


# 気象経過イメージ (金沢气象台)



※金沢气象台観測データを基に石川県農業試験場が作成  
 ※平年値は過去30年間(昭和56年~平成22年)の平均値  
 ※降水量・日照時間については、1、3、5、7、8、10、12月の第6半旬は、6日間の合計値となるため、他の半旬より値が大きくなる場合が多い

# 気象経過イメージ（金沢气象台）



※金沢气象台観測データを基に石川県農業試験場が作成  
 ※平年値は過去30年間（昭和56年～平成22年）の平均値  
 ※降水量・日照時間については、1、3、5、7、8、10、12月の第6半旬は、6日間の合計値となるため、他の半旬より値が大きくなる場合が多い